

2023年11月12日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解Ⅱ 22 「よみがえりを信ず」

ヨブ19：25～27、Iヨハネ3：1～3

問57 「身体のよみがえり」は、あなたにどのような慰めを与えますか。

答 わたしの魂が、この生涯の後直ちに、頭なるキリストのもとへ迎え入れられる、というだけではなく、やがてわたしのこの体もまた、キリストの御力によって引き起こされ、再びわたしの魂と結び合わされて、キリストの栄光の御体と同じ形に変えられるということです。

問58 「永遠の命」という箇条は、あなたにどのような慰めを与えますか。

答 わたしが今、永遠の喜びの始まりを心に感じているように、この生涯の後には、目が見もせず耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったような完全な祝福を受け、神を永遠にほめたたえるようになる、ということです。

この二つの問答では「生涯の後」と繰り返されているように、将来のことが教えられています。イエスさまの体に結ばれた者たちは、生涯の後、そこに何を見るのでしょうか。それは信仰者の生きる目的、終末の完成と理解してよいと思いますが、わたしたちの人生にはそのような明確な目的があります。

もし人生がこの世だけで完結してしまうのであれば、わたしたちは死に向かって生きていることとなります。これほど虚しいことはありません。聖書にも「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」（Iコリント15：32）とあります。これはよみがえりを信じない者たちの虚無的な生き方を示しています。わたしたち信仰者がよみがえりを信じることは、非科学的なおとぎ話のような話ではなく、生涯の後、その人生の先に明確な目的を持つことです。目的は手段を規定します。例えば、将来このようになりたいという目的があるならば、そのために今何をすべきなのかが決まります。受験生は希望の学校に行くために勉強します。子どもたちは大好きな野球選手に憧れて、その目的に向かって一生懸命練習します。聖書は死の先にわたしたちが生きる本当の目的、完成形を示しています。それが今を生きるわたしたちの生き方を作るのです。

では、その目的、完成形とは何でしょうか。問57では「キリストの栄光の御体と同じ形に変えられる」とあります。今日読みましたヨハネの手紙でも「しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となる」（3：2）とありました。もちろんイエスさまになるわけではありませんが、イエスさまに似てくる。同じ形になるということです。これは人間の創造と関係しています。創世記にある人間の創造では、人間は神のかたちに創造されたことが記されています。これを教理の言葉では「神の似姿」（イマゴ・デイ）英語で「image of God」と言います。人間は神さまのイメージに造られました。それは神さまと通じ合う存在、神さまの呼びかけに応えることができる、そういう特別な神さまとの関係性の中にわたしたちは置かれています。それは動物とは根本的に違う、人間特有のものです。詩編に「神に僅かに劣るものとして人を造り、なお、栄光と威光を冠としていただかせ、御手によって造られたものをすべて治めるようにその足もとに置かれました」（詩編8：6～7）とあります。つまり人間は神さまの栄光を映し出し、この世界を御心に適って正しく治めるために造られました。

ところが今、世界はどうなっていますか。戦争があります。環境が破壊され、気候変動が起こ

っています。このままだと世界はどうなってしまうでしょう。人間はこの世界を正しく治めきれないのです。どうしてでしょう。それは人間が神のかたちを壊し、自ら神さまとの関係性を絶ってしまったからに他なりません。その罪によって、人間は世界を正しく治めることができなくなってしまいました。それが今の世界の現実となって現れています。

では、神さまはこの状態をそのまま放置されるのでしょうか。決してそうではありません。神さまはわたしたちを再び御前に回復してくださいます。イエスさまによって、その十字架とよみがえりの御業によって、罪を赦され、神さまのかたちを回復していきます。それはイエスさまの体に結びつけられることで可能になります。具体的には洗礼を受けて、教会につながることです。わたしたちはそのように聖化され、やがてその生涯の後にわたしたちは「キリストの栄光の御体と同じ形に変えられる」創造の目的に適うように整えられていくのです。

そして最後には問58にある「完全な祝福」が待っています。それが終末における完成です。ここで神さまの創造の目的が達成されるのです。神さまはお造りになされた世界を中途半端に放置されるわけではありません。創造の目的に適うように、イエスさまを救い主として与え、壊れてしまった関係を回復し、御前に生きることができるようにしてくださいました。そして最後は完全な祝福にあずかせてくださる。生涯の後にその完成を約束してくださっているのです。これは何という幸いでしょう。

イエスさまは十字架におかかりになられたとき、犯罪人の一人に「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」(ルカ23:43)とおっしゃいました。惨めに思う人生でも、誰にも顔向けできなくても、そういうことは関係ありません。イエスさまが十字架によってわたしたちを御前に赦してくださいます。罪を犯して追放されたあのエデンにもう一度わたしを連れて行ってくださるのです。ヨブ記に「この皮膚が損なわれようとも、この身をもってわたしは神を仰ぎ見るであろう」(ヨブ19:26)とあります。ここは葬儀、その中でも火葬のときによく読まれる聖書の言葉の一つです。わたしたちは地上の生涯を終えて、その体は灰になります。けれどもたとえこの皮膚が損なわれようとも、灰になろうとも、この身をもってわたしは神さまを仰ぎ見る。それが生涯の後にわたしたちが見る景色です。

天の父よ。あなたから離れ、あなたの樂園に迎えられるような者ではありません。けれどもあなたはイエスさまをお遣わしください、その十字架とよみがえりの御業によって、わたしたちを御前に回復させてくださいます。この生涯の後に備えられたよみがえりの命、完全な祝福を待ち望みつつ、希望をもって歩むことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。